

食事介助では声掛けが大切！

11月15日に、2年福祉コースは、牧野先生から食事の介助方法を学びました。

私たちは様々な介護食を食べました。とろみ調整食品で味噌汁にとろみをつけると、ゆっくりとした動きになり、液体が気管に入ることを防ぐことができます。また、市販されている介護食を食べました。どれも、とろみがついていたり、ゼリー状になっていたり、柔らかい食材を使用されていたりしました。誤嚥を防ぐための、おいしい食品がこんなにもたくさんあるのだと驚きました。



<感想>

- ・実際に、とろみのついた食べ物や飲み物を食べて、嚥下機能が低下している人でも、食べ物や飲み物が気管に入ってしまうリスクを減らせることを実感しました。
- ・食事介助をしてもらうことで、話しかけながら食事を勧めることやその人のペースに合わせることの大切さに気付くことができました。